有毒植物に気をつけよう

２０１５－７　野草と樹の会

山野草名	有毒部位	中毒症状	毒性成分	備　　考
カンアオイ類（タマノカンアオイ・ウスバサイシン）	全草	腎障害、発がん物質	アルストロキア、サフロール	咳止め、鎮痛薬として、民間薬「杜衡（カンアオイ）」
テンナンショウ類（ウラシマソウ、ユキモチソウ、マムシグサ、他）	全草、特に球根や果実	唇や口内が腫れて痛む	シュウ酸カルシウム	球根が生薬の「天南星」
カラスビシャク	全草	喉を刺激し舌が腫れる	シュウ酸カルシウム	球状の根茎を乾燥させて半夏といい、漢方処方に加えられる
ホウチャクソウ	全草	吐き気	不明	
ヒガンバナ類（キツネノカミソリ、ナツズイセン）	全草とくに鱗茎	嘔吐、下痢、酷い時は中枢神経麻痺	アルカロイドのリコリン、ガランタミン	
アオツズラフジ	全草	呼吸、心臓麻痺	アルカロイドのトリロビン、ホモトリロビン	利尿、鎮痛、緩下剤として利用される
レイジンソウ	全草	筋肉の麻痺や呼吸困難	アルカロイドのリコクトニン	
トリカブト	全草とくに地下部	誤食すると早ければ３０分以内、１～２時間で唇、舌や手足の痺れ、嘔吐、筋肉の痙攣、不整脈、意識不明、死に至る	アルカロイドのアコニチン、メサコニチン、ヒパコニチンなど	山菜の摘み時にニリンソウと間違えやすい
イチリンソウ	全草	汁液で発赤、発疱等の皮膚炎症	配糖体成分ラヌンクリンのプロトアネモニン	芽生えの頃のニリンソウと間違えやすい
センニンソウ	全草	汁液でかぶれや皮膚炎また濡れた花粉で同様	ラヌンクリンが分解されプロトアネモニン	
ウマノアシガタ	全草	皮膚に触れると腫れたり、誤食すると嘔吐、神経症状	ラヌンクリンが分解し、プロトアネモニン	
キツネノボタン	全草	汁液で、かぶれや皮膚炎症、誤食で急性胃腸炎、下痢、消化器出血、嘔吐など	プロトアネモニン	茎や葉柄に毛があるケキツネノボタンも同様
タケニグサ	全草	汁液で、かぶれや皮膚炎症、誤食で嘔吐、下痢、酩酊状態、血圧低下、呼吸麻痺	アルカロイドのサンギナリン、ケレリトリンなど	山菜として誤ることがある
ムラサキケマン	全草	誤食すると嘔吐、睡眠、心臓麻痺	プロトピン	キケマンも同様

山野草名	有毒部位	中毒症状	毒性成分	備　　考
クサノオウ	全草	汁液で、かぶれや皮膚炎症、誤食で昏睡、呼吸麻痺	アルカロイドのケレリトリン、サンギナリン、ベルベリンなど	
ギシギシ	全草	多量に食べると、嘔吐、下痢、痙攣、重症の場合は死に至る。肝臓や腎臓に蓄積される	水溶性シュウ酸塩、体内でシュウ酸カルシウムとなる	スイバ類も若芽を食用にするが、大量摂取は慎みたい
ヨユシュヤマゴボウ	果実と根	腹痛、嘔吐、下痢、痙攣を起こし死に至ることもあり	サポニンのフィトラッカトキシン	市販のヤマゴボウはモリアザミの根
アカザ	全草、主に葉	多量に食べると頬や手がほてり、光毒性皮膚炎	不明	仲間のシロザも同様
カタバミ	全草	多量に食べると、消化器管系の粘膜に炎症		仲間のオッタチカタバミも同様
イラクサ	茎、葉につく刺毛	触れると疼痛、紅斑、腫れ	ヒスタミン、アセチルコリン、セレトニン	ムカゴイラクサ、ミヤマイラクサも同様
オニグルミ	葉、未熟果皮	触れるとかぶれる	ナフトキノン類のユグロン	中の種子は食用
テイカカズラ	全株	汁液で、かぶれる	トラチェロシド	花はジャスミンに似た香りがある
ハシリドコロ	全草	誤食すると嘔吐、手足の痺れ	アルカロイドのアトロピン	芽生えをフキノトウ、また柔らかい葉を山菜と誤認しやすい 毒性成分はチョウセンアサガオやエンジェルストランペットと類似
ヒヨドリジョウゴ	全草、とくに果実	誤食すると頭痛、嘔吐、下痢、呼吸中枢の麻痺	ソラニン	生薬として「白毛藤」
ハエドクソウ	全草	誤食すると嘔吐、腹痛、血尿	硝酸カリウム、フリマロリン	蕾は上向き、咲いて横向き、果実の時は下向き
キキョウ	全草	誤食すると嘔吐、下痢、胃腸障害	キキョウサポニン、プラティコジン	「桔梗根」として去痰、咳止め
イヌホウズキ	全草とくに果実	果実を誤食すると吐き気、嘔吐、腹痛、下痢	ステロイドアルカロイド配糖体のソラマルジン、ソラソジン	東南アジア、中国南部では若い葉を食用にする
ニワトコ	全株	多量に食べる、下痢	硝酸カリウム	山菜として食する地域がある
イケマ	全草	誤食すると吐き気、痙攣	プレグナン配糖体のシナンコゲニン	果実をオクラと誤認 アサギマダラの食草

参考文献「日本の有毒植物」学研教育出版　　約１８０種が紹介されている。